



2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、
「東京メトロ“魅力発信”プロジェクト」を策定
～ 地下鉄を使ってもっと楽しく、東京をもっと魅力的に～

東京メトロ(本社:東京都台東区 社長:奥 義光)では、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて「東京メトロ“魅力発信”プロジェクト」を策定しました。

本プロジェクトは、これまで計画していた施策に加え、施策の前倒しや新規施策の追加も合わせて取りまとめたもので、関連する設備投資額(2014～2020年度)は総額約4,000億円を見込んでいます。

2020年オリンピック・パラリンピックの開催地が東京に決定したことを受け、2013年10月、「2020年東京オリンピック・パラリンピック対策推進本部」を社内に立ち上げ、安全やサービス等に関する総点検を実施しました。

この総点検の結果を踏まえ、オリンピック・パラリンピックの開催後も見据えながら、2020年に向けて本プロジェクトを策定しました。

プロジェクトの詳細は、別紙のとおりです。



東京メトロ“魅力発信”プロジェクト



「東京メトロ“魅力発信”プロジェクト」とは

これまでも、東京メトログループでは「安心＝安全＋サービス」との考えのもと、各種施策を進めてまいりました。

本プロジェクトは、2020年オリンピック・パラリンピックの開催地が東京に決定したことを受け、オリンピック・パラリンピック開催都市の重要な交通インフラとして、安全性やサービス水準をこれまで以上に向上させることはもちろん、より楽しくご利用いただくことを目指し、「東京の魅力」と「東京メトロの魅力（安心）」の発信をテーマに策定したものです。

プロジェクトの3つのキーワードと目指す方向性

キーワード

沿線地域との連携、東京を楽しく

地下鉄をわかりやすく快適に

世界トップレベルの安心でお出迎え

・「東京の案内役」として、沿線地域の皆様とも連携・協調しながら、東京メトロ駅周辺エリアの魅力を発信し、日本はもとより海外からのお客様にも、東京を存分に楽しんでいただくことを目指してまいります。

・「東京圏の交通ネットワークの中核」として、他の交通事業者とも連携しながら、地域の玄関でもある駅をはじめとする東京メトロの諸施設をお客様が安心してご利用いただけるよう、安全性やサービスの水準をより一層向上させ、東京圏の重要な交通インフラとしての役割を果たしてまいります。

・本プロジェクトを着実に実行するため、東京メトログループ内の体制づくりを万全にするとともに、国や東京都、沿線地域の皆様、他の交通事業者などの関係者とも連携・協調してまいります。

・具体的な施策や実施時期については、今後策定する中期経営計画や事業計画に反映してまいります。

沿線地域との連携、東京を楽しく

～東京の魅力の発信基地～

- 沿線地域と協働した観光資源の発掘、発信
- さまざまな媒体を通じた、駅周辺のエリア・歴史/文化・観光情報等の提供
- 東京の魅力が詰まった主要エリアマップの作成

➤ 地域と連携して沿線情報を発信し、より一層東京の魅力を感じていただけます。



～駅周辺とメトロが一体化～

- 駅周辺エリアと東京メトロが一体となった共同イベントの開催や企画の盛り上げ
 - ー各地域主催イベントへの共同参画
 - ー駅周辺の文化施設等と連携したイベントの実施
- 地下鉄を使った東京のおでかけをより楽しんでいただけます。



[イメージ]

～駅は地域の玄関口～

- それぞれの地域の特色を活かした駅改装・改良
 - ー銀座線各駅など、駅ごとのコンセプトに沿った改装・改良の実施
- 駅に降りた時からまちの雰囲気を感じ、楽しく・快適にご利用いただけます。



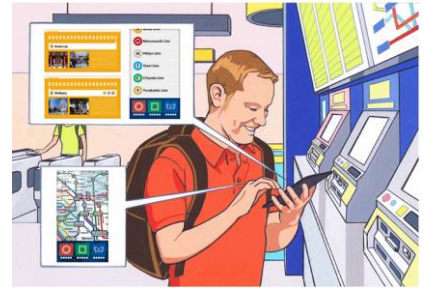
[イメージ]

地下鉄をわかりやすく快適に

～欲しいときに、欲しい情報を～

- 訪日旅行者向け無料Wi-Fiの、より使いやすい環境の整備
- 先端技術の活用による位置情報、ナビゲーションサービス・エンターテインメントコンテンツの提供
- 運行情報データなどのオープン化によるアプリ開発の促進
- 駅構内サインシステムの改良・駅係員によるご案内の強化、連続性のあるご案内

➤ **お出かけの際も、必要な情報が必要なときに
得られるようになります。**



【イメージ】

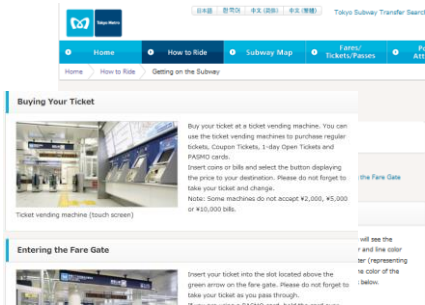
～多言語情報の充実化～

- 東京の観光情報やメトロのご利用方法を、WEBサイト等を通じて多言語で提供
- 災害情報や運行状況も、ディスプレイや音声により多言語で発信

➤ **ご旅行前の情報収集や来日後の情報取得もわかりやすくご利用いただけます。**



【イメージ】



～車内も楽しく快適に～

- 車内ディスプレイの銀座線・日比谷線等への3画面化導入や天気予報やニュースなどの情報配信

➤ **車内を楽しく・快適にお過ごしいただけます。**



【イメージ】

～ホームドア整備加速～

- 銀座線全駅への設置（大規模改良工事駅を除く）
- 競技会場の最寄駅等、主要駅へのホームドア先行設置を推進（新型ホームドアの設置も含め検討）

➤ 全ての路線へのホームドア整備を加速化し、ホーム上をさらに安全にご利用いただきます。



[イメージ]

～震災・大規模浸水対策～

- 震災・大規模浸水対策の強化、早期運転再開に向けた対策の推進

➤ 安心して駅をご利用いただくとともに首都東京の都市機能の保持につなげていきます。



[イメージ]

～バリアフリー設備整備の推進～

- 全駅へのエレベーター1ルート整備完了
- エレベーター複数ルートを、乗換ルート等へ整備

➤ シームレスに・ストレスなくご移動いただける環境を整えます。



[イメージ]

「沿線地域との連携、東京を楽しく」の主な施策・概算投資額

- ✓ 東京の魅力の発信基地
- ✓ 駅周辺とメトロが一体化
- ✓ 駅は地域の玄関口

項目	主な施策	概算投資予定額 【2014～2020年度】
東京の魅力の 発信基地	東京の魅力の発掘、発信 －観光資源の発掘、発信	---
駅周辺とメトロ が一体化	エンターテインメント情報、沿線情報の提供 －WEBサイトにおける東京観光情報やメトロのご利用方法の多言語での提供 －車内ディスプレイでのニュースや沿線情報の提供 －冊子やアプリ等による沿線情報の提供	
	イベントの開催 －沿線地域と一体となったイベントの開催や企画の盛り上げ －駅や車内でのイベントの開催 オリンピック・パラリンピック期間中の特別な企画 －関連情報の提供 －駅構内での特別イベントの開催 －駅構内、車両の特別装飾	
駅は地域の 玄関口	銀座線全駅ほか駅改装、改良※ －沿線地域の玄関口である駅の、地域の特色を活かした改装、改良	約800億円

※渋谷、新橋、虎ノ門の3駅については2022年度までに工事完了予定

「地下鉄をわかりやすく快適に」主な施策・概算投資額

- ✓ 欲しいときに、欲しい情報を
- ✓ 多言語情報の充実化
- ✓ 車内も楽しく快適に

項目	主な施策	概算投資予定額 【2014～2020年度】
欲しいときに、 欲しい情報を	訪日外国人向け無料Wi-Fiの、より使いやすい環境の整備 位置情報の提供、先端技術の活用 －駅構内ナビゲーションサービス －AR技術を用いたナビゲーション、エンターテインメントコンテンツ 運行情報等データなどのオープン化によるアプリ開発促進	約50億円
多言語情報 の充実化	〔再掲〕エンターテインメント情報、沿線情報の提供 －ウェブサイトにおける東京観光情報やメトロのご利用方法の多言語での提供 －車内ディスプレイでのニュースや沿線情報の提供 －冊子やアプリ等による沿線情報の提供 災害情報や運行状況も、ディスプレイや音声により多言語での提供	--
	駅構内での情報提供の充実 －サインシステムの見直し －駅構内への液晶ディスプレイ型の自動旅客案内装置導入 －訪日外国人対応強化のための駅員教育	約150億円
	券売機の改良 －多言語対応、操作性の向上	約50億円
車内も楽しく 快適に	車内での案内情報の充実 －車内への液晶ディスプレイの設置 銀座線・日比谷線等における3画面化 －車内ディスプレイの外国語対応強化 －英語での車内放送の充実	約100億円

「世界トップレベルの安心でお出迎え」 主な施策・概算投資額

- ✓ ホームドア整備加速
- ✓ 震災・大規模浸水対策
- ✓ バリアフリー設備整備の推進

項目	主な施策	概算投資予定額 【2014～2020年度】
ホームドア 整備加速	ホームドアの設置 －銀座線各駅への設置完了（大規模改良工事予定の駅を除く）、日比谷線・千代田線各駅への順次導入（新型ホームドアの設置も含め検討） －競技会場の最寄駅等、主要駅へのホームドア先行設置を推進	約280億円
震災・大規模浸水 対策 （自然災害対策）	震災対策 －高架橋柱の補強約1,200本、地上部の石積み擁壁の補強約1,800m 大規模浸水対策 －出入口の浸水対策 約400箇所、換気口等の浸水対策 約130箇所、坑口への防水ゲート設置 4箇所 （2022年度までに対策完了予定） 帰宅困難者対策 －飲料水、ブランケット、簡易マット、携帯用トイレ等の備蓄（当社管理全170駅） －各種訓練の実施	約300億円
	総合指令所の機能強化 －建物の免震化・防水化、非常電源の長時間化、通信設備の多重化 －案内放送やディスプレイ表示による、自然災害発生時の全駅への英語での一斉情報提供	約280億円
バリアフリー設備 整備の推進	エレベーターの整備 －全駅へのエレベーター1ルート整備 100% －エレベーター複数ルートを、乗換ルート等へ整備 多機能トイレの整備 100%（大規模改良工事駅除く）	約470億円
駅構内の利便性 向上	駅空間の快適性向上 －駅内空調の整備 －ホームへのベンチ増設 －トイレ改装	約130億円
車両の快適性向 上	車両の改善・快適性向上 －車両の更新：銀座線・日比谷線・千代田線における全車両更新 －照明のLED化・空調設備の強化	約1,200億円
さらなる安定輸送	東西線の輸送改善 －南砂町駅における線路・ホームの増設等の大改良 －木場駅における昇降設備増設等の大改良 －都心部における折返し線整備	約530億円

既存計画含む
概算投資予定額
(2014～2020年度)

約4,000億円

（注）本資料に記載の投資額・施策内容・完成年度等については、現時点における計画であり今後の関係各所との協議等により変更となる可能性があります。

安全・サービス等の総点検の概要

総点検では、以下の3つの視点から各種施策ごとのありたい姿を点検基準として設定し、現状の取組み水準を確認したうえで、2020年に向けて、今後行うべき取組みについて検討しました。

【総点検における3つの視点】

- 視点1：世界トップレベルの地下鉄の安全を
- 視点2：地下鉄をわかりやすく快適に
- 視点3：地下鉄を使って東京を楽しむ

点検基準の策定においては、以下の①～④のような方法で外部の視点を取り入れ、客観的な基準とするよう努めました。

①お客様による評価の把握

お客様（モニター含む）へのアンケートやインタビューを通じ、現状のご意見や今後の計画に関するご要望等をおうかがいしました。

②有識者へのヒアリング

家田仁教授（東京大学・政策研究大学院大学）をはじめとする有識者（鉄道全般、自然災害対策やバリアフリー、訪日外国人のニーズ等の専門家）へヒアリングを行い、現状の取組みや今後の計画についてご意見をいただきました。

③他国・他社事例との比較

ロンドンオリンピックの際に鉄道会社が行っていた施策については、現地鉄道会社へのヒアリング等調査を行い、2020年の東京オリンピック・パラリンピックで必要となる対策について検討しました。また、鉄道会社以外も含めた他社の取組みを踏まえ、東京メトログループとして今後実施すべき施策について、検討しました。

④実地調査

障がいをお持ちのお客様・外国人のお客様が実際に東京メトロをご利用いただくところに、秋山哲男教授（中央大学研究開発機構）をはじめ専門家の方にもご同行いただき、駅や車内で不便に感じる点についてご意見をいただきました。

※実地調査で得られたご意見

お出かけ前の事前情報の取得や無料Wi-Fiの整備、災害・緊急時の案内が望まれる。

□実地調査の様子



□点検結果

視点1：「世界トップレベルの地下鉄の安全を」

既に高い水準の安全性・安定性を有するが、一層のレベルアップを図るため、ホームドア整備等の拡充を進めていく必要がある。

視点2：「地下鉄をわかりやすく快適に」

全てのお客様にストレスなくご利用いただくため、点での改善を線としてつなげていくよう、ご案内の強化やバリアフリー設備の整備計画等を進めていく必要がある。特に外国人のお客様をお迎えするにあたり、多言語ご案内サインの改善や駅員による外国語対応の強化が必要である。

視点3：「地下鉄を使って東京を楽しむ」

東京の魅力をお伝えするため、駅周辺沿線情報等様々な情報の提供に加え、沿線と一体となったイベントの実施、駅構内・車内のエンタメ空間化を図ることが望ましい。